

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集: FXニュースレター

執筆担当: 斎藤登美夫

◆◆◆ No.0783 ◆◆◆

24/04/03

【 4月相場は非常に重要、「大相場」は継続中なのか!? 】

先日終了した3月相場は、月間変動幅が5.49円となり前2月の変動(4.98円)は上回ったものの、これまでの推移からすると、いささか物足りなさの残る展開だった。とくに、3月最終週(25-29日)は、週間を通して値動きが1円にもとどかず、月の最終盤にかけてかなりの小動きをたどっていたことが見て取れる。果たして、一過性の小動きにとどまるのか、それとも相場が良くも悪くも落ち着きを取り戻し、沈静化しつつある証左なのか、足もと4月以降の相場変動は非常に重要と言えそうだ。

◎「ドル安サイクル」との絡みでは、4月が年間ドル最高値の可能性も!?

以前から何度も報じているように、ドル/円の月間変動幅は「2022年3月以降のおおむね8円強動いてきた」が、昨年夏ぐらいからパターンの崩れることが少なくなかった。実際、昨年12月に8.08円、今年1月には8円ちょうど動いたものの、先で記したように2月そして3月は5円前後の値動きだ。これには、3月29日に鈴木財務相が「為替は水準が問題ではない、防衛ラインはない」と発言したものの、実質的には152円をある種のシーリングと考えているフシのうかがえる日本の通貨当局の意向も無視できないだろう。通貨の変動を過度に制限する、「準管理相場」のような展開はヒョッとすると、4月以降続く可能性を否定できない気もしている。

いずれにしても、今回の当レターでは以下で恒例となっている過去の経験側を参考にした4月相場の見通しを指摘してみたい

まずは1990年以降昨年まで過去34年間の星取表を指摘すると16勝18敗だった。ややドル安・円高方向が優勢ではあるものの、大きな特徴と言えるほどではないようだ。一般的には4月は「名実ともに新年度入りすることで、生保や年金など資本筋からの外債投資が活発化。需給的にはドル高・円安有利」といった指摘も多く聞かれている。そして今年についても、「年度代わったことで、4月は新NISAにともなう円売りが大量にでる」との憶測を、筆者もある市場筋から先日聞いたばかりだ。しかし、前述したように過去の経験則からすると、過度の期待は禁物という気がしてならない。

そんな方向性では目立った特徴が見いだせなかったドル/円だが、調べてみると、4月相場には別に重要なポイントが2つあることがわかった。

順を追って説明すると、うちひとつは「3月と4月の価格変動は逆方向に動くことが非常に多い」ということ。とくに2000年以降は例外と呼べるケースが稀であることも非常に興味深い。実際に、3月と4月のドル/円の月足を比較してみると昨年までの全24例中、実に21例までが的中。それも2003年以降2009年までは7連勝、そして一度途切れたあと、2014-21年も8連勝を記録していた。一度トレンドが発生すると、長く維持すると見られることもなかなか興味深い事象のひとつと言えそうだ。

一方、そんな4月相場の2つ目の特徴は「一年間のなかで1月に次いで年間の最高値 or 最安値のいずれかをつける公算が大きい」ことになるだろう。参考までに、1月については1990年以降昨年までの34年間で15回がそのパターンに合致しているが、4月は同様に34年間で7回記録。1月のちょうど半分ではあるものの、確率としては決して低くない。

実をいえば、筆者は以前から何度もレポートしている「ドル安サイクル」などとの関係性を踏まえたうえで、今年のドル/円相場は4月に年間のドル最高値を示現する公算が大きいのでは、と漠然と予想していたのだが果たして如何に。先でも書いたように、「壁」として君臨している152円を超えて155円近くへと達することになれば、まさにその可能性が一段と高まる気がしないではない。

最後に4月をカレンダー一要因、過去の出来事や歴史で振り返ると、興味深い事象がたくさんうかがえる。紙幅に限りもあるため、為替に関するものをいくつかピックアップしても、先で指摘した「ドル/円がメモリアル・ハイの160.35円を記録(1990年)」、「同メモリアル・ローの79.75円を記録(1995年)」をはじめ、「米国が金本位制を停止し、ドルの切り下げ(1933年)」、「GHQが1ドル=360円の為替レート制定(1949年)」、「中国に新たな外為市場が誕生(1994年)」――など枚挙に暇がない。

また、事件関係でも「リンカーン米大統領が狙撃される(1865年)」、「タイタニック号が沈没(1912年)」をは

じめ、ショッキングな出来事が相次いで起こっている。もちろん、こうしたことは毎年確実に起こるわけではないものの、こちらもやはりリスク要因として、頭にとどめておいて損はなさそうだ。(了)



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。
なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。



Copyright (C) fx-newsletter limited company All Rights Reserved



FX-newsletter